（５）　作品募集

男女の生き方に関する作品の全国募集事業

茨城県日立市生活環境部女性政策課

（H17.4.1 現在人口　201,445 人）

TEL　0294（22）3111　内線 568　　FAX　0294（24）5302

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　h-josei@hitachi.city.org　　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.city.hitachi.ibaraki.jp

○　目　的・概　要

日立市においては、平成 13 年 12 月に、「日立市男女共同参画社会基本条例」を施行し、その中で「啓発事業の実施」として、『市は、男女共同参画社会の形成促進に関し、市民の理解を深め、意識の高揚を図るため、男女共同参画強調月間を設けるとともに、広報紙の発行及び講座の開催その他の啓発事業を実施するものとする』と定め、さまざまな事業を実施しています。

その中で、平成 15 年度から実施している「男女の生き方に関する作品の全国募集事業」は、身近な生活から生まれる男女の生き方やお互いに対する思い、メッセージなどの作品を募集することによって男女共同参画についての関心を高め、男女共同参画社会の早期形成を図ることを目的としています。また優秀作品については、強調月間のメイン事業として開催する“日立市男女共同参画をすすめるつどい”の中で表彰するとともに賞金を贈ります。

また、作品のパネル展を行います。

○　特　徴

募集する作品のテーマは“男女の生き方”で、寄せられた作品の多くは、共に暮らす男女や働く男女、地域に生きる男女が育児や介護、仕事、家事、地域活動など身近な暮らしのなかで支え合う様子が生き生きと描かれています。募集する作品の形態は、ミニポエム、奮闘記（エッセイ）、短歌として募集してきました。また、ミニポエムは掲載作品を選考し、作品集として出版しました。奮闘記についても、作品集として出版する予定です（H17 年度）。

（募集名）

H15 年度　「大切なパートナーだから･･･あなたに贈るミニポエム」
　　選考委員長　新川和江（詩人）

H16 年度　「男女が織りなす暮らしの奮闘記」　選考委員長　みつはしちかこ（漫画家）

H17 年度　「男女が紡ぐ暮らしの短歌」　選考委員長　沖ななも（歌人）

○　実施にあたって留意・工夫した点

全国から作品を応募してもらうため、新聞や雑誌等のメディアを活用し、作品の選考委員長には、毎年、県内出身の著名人に依頼しています。また、表彰式を行う“日立市男女共同参画をすすめるつどい”においても、女優による作品の朗読を行うなど、市民の関心を高める工夫をしてきました。また、できるだけ多くの人たちから作品の応募の機会を増やすために、毎年、作品の形態を変えています。

○　平成 17 年度における予算額・従事する職員数

予 算 額　７３８，０００円

従事者数　３名

○　取組による効果、参考データ等

この事業の効果のひとつは、市内外へ発信することによって、男女共同参画について多くの人に関心を持ってもらうことですが、これは、海外在住者を含み、全国から多数の応募があったことから確認することができました。

もうひとつの効果は、さまざまな世代の人たちから、男女共同参画の意義や目的を捉えた作品が多く寄せられることです。

身近な暮らしの中からほとばしる言葉や体験は、心に響くものがあり、男女共同参画を理解してもらう近道の一つだと思われます。

作品には、さまざまな世代の男女が共に暮らしていくために、男女の役割を超えて支え合い、困難を乗り越えていく様子が生き生きと描かれ、ことさら男女共同参画を押しつけることなく、読む人の共感を誘い、

男女共同参画への理解を深める説得力があります。このように身近な暮らしの中から生まれた作品は、男女共同参画を理解するために大きな効果を持つものです。

○　今後の課題・方向性

身近な暮らしの中で生まれる“男女共同”の“参画意識”が込められた作品を募集することは、理解を深めるために大きな意義を持つと考えられるため、今後も男女の生き方に関する作品を募集していきます。これまで、ミニポエム、エッセイ、短歌として作品の形態を変えて募集してきましたが、今後の作品形態については、男女共同参画の理解を深めるために適したものは何かを検討しながら決めていきます。

また、募集した作品は２年続けて作品集として出版しましたが、17 年度に募集する短歌については、しおりを作成して優秀作品をＰＲするなど、新たな活用方法を考えます。

寄せられた作品をできるだけ多くの人に見てもらうための工夫をしていきます。

○　その他特記事項

平成 15 年度の応募作品 717 点の中から 180 点を選んで出版

「あなたに贈るミニポエム」　製作数　1,000 冊　販売価格　1,200 円

平成 16 年度の応募作品 304 点の中から 100 点を選んで出版（予定）

「男女が織りなす暮らしの奮闘記」　製作数　1,000 冊（予定）

「男女が織りなす暮らしの奮闘記」
全国募集　入賞作品より

最優秀賞

「ママとじいじはコミュニティ・ビルダー」

武田　恵美子

「地域に居場所がない」これは、新米ママとリタイア・じいじに共通することです。

近年、女性は出産直前まで働くようになり、結婚後住み始めた新しい地域にいるのは夜間だけ。ところが、赤ちゃんの誕生とともに終日そこで過ごすことになります。頼みの夫の帰宅は遅く、近所に知り合いがいない中、不慣れな「孤育て」。赤ちゃんと散歩しながら公園探しに、子どものいる家のリサーチ。たとえ公園を見つけても親子が遊んでいるとは限らず、子どものいる家を見つけても突然ピンポンとはできません。本当に寂しいです。でも、ここで家にこもってはいられない。子どもに友達の存在は不可欠。自分も近所に友達が欲しい。ママは子どもと自分のために勇気を出し外に出て行きます。散歩途中すれ違った方に笑顔で挨拶。「赤ちゃん何ヶ月？」と声をかけてもらえればしめたもの。会話のきっかけをゲットして、おしゃべりで親しくなり、地域に少しずつ馴染んでいきます。

一方、リタイア・じいじ。こちらも会社勤めの間、地域にいたのは夜のみ。退職（リタイア）し、終日地域で過ごす生活がスタート。自分の居場所のなさに愕然とします。ところが、じいじは、自治会の仕事などを任されるとがぜん力を発揮します。長年の会社勤めで得た組織力で自治会をまとめていきます。

この新米ママとリタイア・じいじが手を組むと地域は活性化

2

をはじめます。

我家が所属する自治会は、じいじが大活躍しています。じいじ達は地域の遊歩道の管理グループを結成し、掃除や花壇の手入れをしています。子どもの散歩にぴったりの場所なので親子はそこを利用。遊歩道で挨拶を交わすうちに親しくなり、もと新米ママだった私の話にもじいじは耳を傾けてくれます。

以前「孤育て」をしていた私は今、自治会のじいじ達の理解を得て、地域の新米ママが集えるサロンを自治会館で開催中。新米ママへの挨拶が広報です。新米ママがサロンに参加してくれれば、自治会加入もしやすくなり地域デビューにもつながります。そんな自分を私は密かに「コミュニティ・ビルダー」と自称。でも私の背景にいるのはじいじ達。一番大切なのは、じいじ達が「コミュニティ・ビルダー」になって、異世代を受け入れてくれたことだと思います。

「地域に居場所がない」両者が、相互理解し動くと、地域は幅広い世代に住みやすく素敵になるのです。

3

男女共同参画啓発絵本発行事業

静岡県静岡市総務局企画部男女共同参画課

（H17.4.30 現在人口　709,958 人）

TEL　054-221-1349　　FAX　054-221-1295

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　sankaku@city.shizuoka.jp　　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

http://www.city.shizuoka.jp/deps/kikaku/danjokyoudou/_private/topindex.htm

○　目　的・概　要

（１）静岡市男女共同参画推進条例の基本理念である「人権の尊重と男女平等の意識づくり」の一環として、個性を尊重する社会を目指し、子どもたちのみならず、大人（保護者・保育士・教諭）も対象にした、絵本による啓発を進めるために実施している。

（２）平成１５年度にコンテストにより絵本化の原案を決定し、平成１６年度に「２００さいのブタ」を啓発絵本として出版した。

（３）市内の公私立全ての幼稚園及び保育園（合計約１７０園）の５歳児等を対象に配付している。（平成１７年度の配付予定約７，０００冊）

（４）本事業は平成８年度からの継続事業で、今回の絵本は３作品目になる。

○　特　徴

（１）今回の絵本出版にあたっては、平成１５年度の旧静岡・清水両市合併を記念し、初めて全国公募で絵本コンテストを実施したところ、北は北海道から南は九州までの全国各地から、また１２歳から７２歳までの幅広い年齢層の作者から、３７作品の応募があった。

（２）コンテストでは児童文学作家、絵本作家ら３人の審査員が審査選考にあたり、大賞１作品、佳作２作品を選考し、そのうち大賞作品を絵本化した。

（３）絵本は２０ページ（表紙等含み）、A４判。原画は、板に石こうを塗って、細かい凹凸をつけた画材にアクリル絵の具で着色させたため、温かみのある特徴的な画風となった。

○　実施にあたって留意・工夫した点

（１）平成１６年度の出版時、幼稚園及び保育園園長に事業の趣旨を説明し、協力を依頼した。
また、市長から園児に絵本を手渡すセレモニーを実施し、PR につとめた。

（２）平成１６年度の男女共同参画週間にあわせ、大賞及び入選作品の原画展を静岡市女性会館内のギャラリーや、JR 静岡駅前地下道の展示ギャラリーで実施し、広く啓発を図った。

（３）配付後、幼稚園教諭、保育園保育士及び保護者あてアンケート調査を実施した。

○　平成 17 年度における予算額・従事する職員数

第２版制作予算（印刷製本費）６４７千円

当該業務を担当する職員は０．１人

（参考）

平成１５年度の所要経費

絵本コンテスト賞金、審査員謝金ほか　約 1,020 千円

平成１６年度の所要経費

絵本印刷製本費　　約 720 千円

○　取組による効果、参考データ等

（１）アンケートによると絵本の内容及び事業効果について賛意を示す声が多数を占めた。

（２）配付対象者以外に行政資料として市役所内で販売したところ、１年間で約５００冊の販売実績があった。

（３）地元テレビや新聞社から数回にわたって取材を受け、報道されたことで、当課の仕事や男女共同参画について広く PR できた。

○　今後の課題・方向性

（１）幼児期の子ども及び保護者・指導者に対する啓発事業として継続実施予定。

（２）次回作品制作の検討。

「女と男の一行詩」の公募

山口県山陽小野田市企画政策部市民活動推進課

(H17.4.1 現在人口　68,170 人)

TEL　0836-82-1134　　FAX　0836-83-9336

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ
katsudou@city.sanyo-onoda.lg.jp

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ
http://www.city.sanyo-onoda.lg.jp/shisei/gender/index.htm

○ 目　的・概　要

男女共同参画の実現をめざし、平成 10 年 4 月「おのだ男女共同参画プラン」を策定しました。

まず、男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動の一環として、身の回りなどで感じる「男女差別」や「男女平等への思い」などを詠んだ一行詩を募集することにしました。第 1 回(平成 11 年度)は、県内から 196 篇の応募がありました。作品の多くは、ユーモアたっぷりの表現で面と向かっては言えない本音や問題点を柔らかく指摘し、一行詩が契機となって男女共同参画社会づくりが歩みだしました。第 2 回からは、募集範囲を全国に広げ発信したところ、年々応募数も増え、全国各地から作品が寄せられるようになりました。毎年、男女共同参画週間に合わせて、入賞作品の表彰式と記念講演会を実施しています。また、応募作品の中から選定し、「女と男の一行詩」の冊子を編集し、男女共同参画社会の実現を目指す啓発のために活用しています。

○ 特　徴

一行詩は、短い言葉で「呼びかけ」という形態をとっています。「女と男の一行詩」は、「心と心を結ぶ一行詩」であり、面と向かっては言えない本音や問題点も一行詩なら簡単に表現でき、柔らかく指摘もできます。一行詩の公募は、男女共同参画を推進するため、意識改革の啓発を目的に実施しています。第 1 回から第 6 回を通じて、30 代女性の応募の比率が最も高く、家庭生活と職業生活の両立の難しさや子育ての悩みを訴えた作品が目立ち、仕事と子育ての両立は、男女共同参画社会を実現していく上で極めて重要であることがうかがえます。また、応募作品を家庭、地域社会、学校、職場に分けて編集すると、少子化の要因を捉えることができます。

このように、応募作品の中から介護や子育てなどの様々な問題点が浮き彫りになってきており、実態把握の意味をもっています。

○ 実施にあたって留意・工夫した点

第 1 回は、市広報紙等による情報発信であったため、応募作品数も、県内 196 篇でした。第 2 回からは、募集範囲を全国に広げ、郵便局へのポスター掲示や女性情報誌などで応募を呼びかけた結果、1,740 篇の作品が寄せられました。第 3 回以降も全国の都道府県の男女共同参画担当部局へポスター、チラシを送付し、募集を呼びかけた結果、年々応募数が増え、第 6 回は 4,719 篇の作品が寄せられました。

作品の審査については、第 3 回から第一次審査は、市男女共同参画審議会委員 15 名に、第二次審査は、市内在住の児童文学作家の方と文化団体の会長にお願いしました。

また、入賞作品の表彰については、啓発活動の一環であることから、第 1・2 回は、女性週間に合わせて、男女共同参画社会づくり講演会と表彰式を開催しました。第 3 回以降は、男女共同参画週間に記念講演会と表彰式を実施するようにしました。

○ 平成 17 年度における予算額・従事する職員数

予 算　：　1,128 千円

従事する職員数　：　4 人

○ 取組による効果、参考データ等

第 1 回の応募作品数は、県内から 196 篇でした。第 2 回以降は、募集範囲を全国に広げた結果、第 2 回は、1,740 篇、第 3 回は、3,534 篇、第 4 回は、3,781 篇、第 5 回は、4,620 篇、第 6 回は、4,719 篇と応募数が年々増えてきています。また、第 4 回については、中学生や高校生が家庭科や国語科の授業の中で「女と男の一行詩」作りに取り組まれ、415 篇の応募がありました。現代の中高校生は、ユーモアにすぐれており、優しい気持ちを大事にしており、素晴らしいセンスを持っていることが一行詩の中から見えてきました。家庭教育、学校教育の意識改革が一層望まれます。

第 1 回から第 6 回を通じて、30 代女性の応募の比率が高く、家庭生活と職業生活の両立の難しさや子育て

の悩みを訴えた作品が目立ちます。両立ライフの実現に最も必要なことは、職場改革であることも捉えることができます。このことは、少子化対策にも関連しています。

○　今後の課題・方向性

各回の応募作品を通じて、女性の作品は、結婚や家事、育児、介護、職場の待遇などをめぐる様々な問題をユーモアで訴える元気なものが多いのですが、全体の 3 割を占める男性の作品は、戸惑いや愚痴っぽいものが多く、両者の温度差がうかがえます。

また、応募比率の高い 30 代女性が仕事と子育ての両立の問題を指摘しており、少子化の要因として捉えることもでき、職域の意識・設備・制度の改革が必要であることが見えてきます。

このように、応募作品から現代の様々な問題点を捉えることができますが、回を重ねるごとに徐々に男女が互いに認め合う心が芽生えてきていることはうかがえます。

今後は、入賞作品の表彰、冊子の編集に終わるのではなく、作品の中から浮き彫りになってくる様々な問題点を男女共同参画関連事業の推進に取り上げていくことが必要です。特に少子化対策の施策にとって、男女共同参画は、重要な課題となります。